

第 33 回日本受精着床学会

東京都、2015.11.26-27

外来卵管鏡下卵管形成術 (FT) 4000 症例の検討結果から見たその有用性

瀧井ゆう子、森分純子、森梨沙、井田守、福田愛作、森本義晴

【目的】

卵管通過障害は女性不妊原因の約 3 割を占めるといわれている。当院では卵管性不妊症例に対し 2001 年より外来レベルでの外来卵管鏡下卵管形成術 (FT) を実施し、まず一般不妊治療による自然妊娠獲得を目指している。我々は既に 4000 症例以上の外来 FT を実施したので、今回、4000 症例についての検討結果を報告する。

【対象と方法】

子宮卵管造影検査にて卵管通過障害 (閉塞および狭窄: 両側および片側を含む) と診断され、2001 年 4 月から 2014 年 10 月の間に外来 FT を施行した 4023 例の内、卵管通過に成功した 4000 例を検討対象とした。月経終了直後から排卵までの時期に局所麻酔下または静脈麻酔下にて FT を施行し、その後の一般不妊治療による臨床妊娠率(胎嚢確認)、妊娠成立に至るまでの期間、年齢別妊娠率について検討した。

【結果】

4000 症例中 948 症例(23.7%)に臨床妊娠が成立した。そのうち両側罹患の妊娠率は 22.3% (734/3290)であり、片側罹患の妊娠率は 30.1%(214/710)であった。また、FT 後妊娠成立までの期間は平均 5 ヶ月 1 日であった。経過別の妊娠率は FT 実施の翌月が 16.8% (160/948)でもっとも高く、55.5%は FT 後 3 か月以内の妊娠成立であった。すべての妊娠の 78.8%は FT 実施後 6 か月以内に妊娠が成立していた。年齢別での妊娠率は、29 歳以下は 31.1% (173/556)、30 歳以上 34 歳以下 29.8%(440/1473)、35 歳以上 39 歳以下 20.7%(296/1427)、40 歳以上 7.1%(39/544)であった。

【考察】

卵管性不妊患者に対し、現在は ART が治療の主流となっている。しかし治療に伴う女性患者への精神的・肉体的負担のみならずカップルへの経済的負担も大きい。それ以前に、すべての患者が可能であれば自然妊娠を望んでいることに疑いはない。今回の結果より FT 後妊娠成立者の約 8 割が一般不妊治療で半年以内に妊娠が成立していることから、FT は ART へ進む前に行うべき有効な治療法と考えられ、特に若年患者においては FT の意義は高い。